

サーサナ

第62号 仏暦2566（西暦2023）年12月12日

自律・自立と慈悲（2）

すべてのものは暴力におびえ、すべてのものは死をおそれる。
己が身をひきくらべて、殺してはならぬ、殺させてはならぬ。

（ダンパマダ第129偈/中村元訳）

自己を島とし、自己を依り所として、他を依り所とせず、
法を島とし、法を依り所として、他を依り所とせずになさい。

（大般涅槃經第35節/片山一良訳）

私たち一人一人が自立した個人として、いかなる束縛も命令も依存もなく、ただ己の良心の命ずるままに、同時に法に照らし合わせて己を律しつつ、考えて行動する。このことの大切さを前号で強調しました。

『カーラマ経』の中で釈尊は、何が真実であるかを判断するための基準として、次のように示しています。

「あなたがたは、風説によってはなりません。伝承によってはなりません。伝聞によってはなりません。聖典記載によってはなりません。推論によってはなりません。公理によってはなりません。類比によってはなりません。見解からの推論に対する受容によってはなりません。有能な外見によってはなりません。自分の師である沙門という理由によってはなりません。（中略）この法は善であり、欠点がなく、賢者も推奨するものであり、それを実践することは有益であり、幸せのためになる。そうあなた方が自ら理解した時には、あなた方はそれらの法を実践すればよいのです。」

釈尊は仏教の開祖とされる方でしたが、弟子たちに対して何かを強制したり命令したこともなければ、弟子となるように勧めることもありませんでした。

ただ、アドバイスだけを与えていました。古代ギリシャの哲人ソクラテスと同様、対話ということを重視したのです（ほとんどの経典は対話の形式をとっています）。釈尊は、対話を通じて、弟子たちが自ら真実を見出せるように手助けをしました。そして、その真実とは単に抽象的な理論ではなく、苦を解決するための具体的実践的な方法であったのです。

既に繰り返してきたことですが、苦とはまずもって個人の心の問題であると同時に、個人が形成する社会の問題でもあります。近代以前の仏教者たちは、「社会は変えることができる」という意識を持つことができなかったがゆえに、すべてを個人の心の問題に解消してしまい、ひたすら忍従を説いてきたのが実情でした。「無我とは我を主張しないこと、無欲になること」というように、教えを捻じ曲げてみました。これは権力者たちには好都合でした。なぜならば仏教者たちがこのように忍従を説くことで民衆の不満をそらすことができたからです。あまつさえ、第二次世界大戦中は、戦争を「聖戦」と讃美してしまいました。これは仏教の歴史の中の汚点です。

ここでもう一度、慈悲について考えてみましょう。智慧と慈悲は仏法の双翼です。両者はあいまって高め合うことができます。そこで、智慧をもって自己及び社会のありようを学んでいく時、実は他者と自己とは深くつながっていることが了解されるようになり、自ずと慈悲がはたらくようになります。他者の苦しみを自らの苦しみとして感じ取ることができるようになるからです。そうでないならば、慈悲ではなく、単なる憐れみにすぎません。

一つ例をあげましょう。2021年において、世界では8.28億人が慢性的飢餓状態（餓死直前）にあり、23億人が栄養不足状態にあります。これは世界で食糧生産が不足しているためではありません。現在の食糧生産量（28億トンの穀物）は全世界の人口を養うのに十分なのです。ではどうして飢餓は起こるか？食べ過ぎたり捨てたりする人（国）があるからに他なりません。

こうしたこと一つを理解するだけでも、自分だけでなく他者のいのちに目を配り、小さなことでも実践していく責任が自覚されてくるでしょう。



永代経懇志お礼

下記の方から永代経懇志を頂戴いたしました。ここにあらためてお礼申し上げますと共に、今後とも法義相続されますことを願いたします。

9月17日	奥村様[天白区中平]	10万円
10月28日	西川様[長野県茅野市]	10万円

法要行事について

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。



一月 修正会（しゅしょうえ）

修正会とは、新年を祝い、また求道の決意を新たにするための法要です。家族揃って、初詣を兼ねて本堂にご参拝ください。

- ❖ 日 時 1月1日（月）午前10時～11時【午前9時半から受付】
- ❖ 内 容 勤行（嘆仏偈・和訳正信偈）、年頭法話
- ❖ 持ち物 『和訳正信偈』『真宗大谷派勤行集』
- ❖ 記念品 鏡餅

三月 涅槃会（ねはんえ）

兼 年間物故者追弔会

兼 春彼岸会

涅槃会とは、釈尊の入滅（入涅槃＝完全なる安らぎである死を迎えられたこと）を記念する法要です。本法要にあわせて、2023年の間に亡くなられた当寺御門徒を追弔いたします。また兼ねて春彼岸法要ともなります。

- ❖ 日 時 3月21日（木）午後2時～4時【午後1時半より受付】
- ❖ 内 容 年間物故者追弔のことは
勤行（和文仏教聖典読誦、正信偈同朋奉讃）
住職法話
- ❖ 持ち物 『和文仏教聖典』、『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）

教心寺ライブラリーから（10）

ミリヤム・プレスラー『賢者ナータンと子どもたち』

（岩波書店、2011年）

宗教間の対立は古くて新しい問題です。特に聖地エルサレムをめぐって、十字軍遠征以来、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教が争いをくりひろげてきました。この三つの宗教は、預言者や聖典についての解釈の違いから対立してきましたが、もとをただせば同じ唯一神を信仰する同根の宗教です。

ドイツの劇作家レッシングは、戯曲『賢者ナータン』を著して、三つの宗教の宥和を訴えました。これをユダヤ人作家のプレスラーがより現代風に読みやすくアレンジしたのが本書です。私たち日本人には諸宗教の対立と宥和といっても実感がわかないかもしれませんが、現代世界の諸問題を考える上で、避けては通れない問題です。

年忌法要

来年（2024年）は没年が下記に相当する方の年忌になります。

1 周忌	2023年（令和5年）	< 27 回忌 >	1998年（平成10年）
3 回忌	2022年（令和4年）	33 回忌	1992年（平成4年）
7 回忌	2018年（平成30年）	< 37 回忌 >	1988年（昭和63年）
13 回忌	2012年（平成24年）	50 回忌	1975年（昭和50年）
17 回忌	2008年（平成20年）	< 70 回忌 >	1955年（昭和30年）
< 23 回忌 >	2002年（平成14年）	100 回忌	1925年（大正14年）
25 回忌	2000年（平成12年）		

大谷派儀式条例に定める年忌は、1・3・7・13・17・25・33・50・100、およびそれ以後100年毎、となります。しかし地域によっては < > 内やそれ以外の年忌法要を勤める場合があります。

- ❖ 御自宅で開催の場合、駐車場の確保をお願いします。
- ❖ 僧侶が袈裟衣を着替えるための部屋を用意して下さい。
- ❖ 勤行本（正信偈同朋奉讃）を人数分用意してください。足りない場合は当寺に必要部数をお伝え下さい。
- ❖ 開催の前日までに、仏具のおみがき、お内仏の清掃をしましょう。
- ❖ 教心寺本堂で開催の場合、使用料として15,000万円をお願いしています。（花代や光熱費高騰のため、やむをえず値上げしました。）

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弑（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>
